

今回は、「日本史探究」の授業改善に関する報告です。

◇ 日本史探究とはどんな科目か

今年度より始まった新科目「日本史探究」に関し、新指導要領は、以下のように定義づけている。

・「日本史探究」は、「我が国の歴史の展開について総合的な理解を深め、各時代の展開に関わる概念等を活用して多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し、地域や日本、世界の歴史の関わりを踏まえ、現代の日本の諸課題とその展望を探究する力を養うこと」をねらいとしている。

・「日本史探究」は、「我が国の歴史について、資料を活用し多面的・多角的に考察する力を身に付け、現代の日本の諸課題を見いだして、その解決に向けて生涯にわたって考察、構想することができる資質・能力を育成する科目」として構成されている。

さらに評価関わる各分野では、以下のような目標が設定されている。

<知識・技能> 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

<思考力・判断力・表現力等> 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

<学びに向かう力、人間性等> 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

◇ 本校における指導計画

上掲のごとき高邁な理想に少しでも近づくためには、どのような授業を展開するべきか。担当者で話し合った結果、以下のような具体的方針を立て、授業を展開することとした。

- ① 教科書や動画教材で予習。各自、教科書掲載の論述課題をノートにまとめておく。
- ② 授業はグループ学習（4名程度）で進行。グループ内で各自が作った課題の解答を発表しあい共有。さらにグループ代表がクラス内で発表し、全体で共有する。
- ③ 教員のコメント。①～③をひとつの流れとし、2～3題を目安に授業を進める。
- ④ 教科書掲載の章末課題を、教室内で各自実践する。あらかじめ問題を解いておくことは認めるが、教室内では教科書・資料集の閲覧は禁止とする。

まったくの反転授業であり、教員の側は原則として講義を行わない。予習に基づくグループ討議と発表、情報共有を連続的に行うことを基本とする。

◇ 4月当初の実践報告

<第1回> 初回は旧石器時代。初回ということもあり、まずは扱う課題を2題にした。1問目は「現在の日本人は、どのようにして形成されたのだろうか」。2問目は「旧石器時代の人々は、どのようにして食料を獲得していたのだろうか」。どちらの問題も、教科書をしっかり読んでおけば、比較的容易に解答できる問題である。この学年は、前年度の「歴史総合」の時間に、反転授業とグループ活動という形式になじんでいるので、授業展開は予想以上にス

ムーズに進んだ。従来のような教員主導の講義はなく、教員の役割は司会・書記・助言に限定される。

<第2回> 第2回は縄文時代。以下の計3の課題に取り組んだ。

- ①旧石器から縄文への文化変容の背景。
- ②縄文時代に定住生活が可能となった背景。
- ③土偶はなぜつくられたかその理由。

①②の問いに関しては、教科書や資料集を参考にすれば、様々な論拠をあげながらの解答が可能。実際、生徒もあれこれ頑張って、工夫をしながら答案を作成してくれた。

大変だったのは③である。土偶はなぜつくられたか。この問いは、研究者にとっても難題である。豊穰や子孫繁栄、生命再生への祈りなど、教科書や資料集を参考に、様々な解答が集まった。その中でも一際光っていたのがある生徒の一言であった。

「妊娠や出産は、当時は命がけ。大変なことだったから、土偶は、お母さん、がんばれって気持ちで作られたんじゃないか」。

③の問いにみられるように、史実や定説を踏まえながらも、時に自由な発想で推論を重ねることを教科書も求めているのではないか。

<第3回> 第3回は弥生時代。設問は以下の通り。

水稲耕作など大陸から伝わった新しい文化や技術は、人々の生活にどのような影響を与えたのだろうか。

難解な問いかけである。「大陸からの新しい文化や技術とは何を指すか」と「人々の生活・社会にどのような変化が起きたのか」の2部構成の討議にし、1回分の授業を使ってグループ活動してもらった。各グループの動きはおおむね以下の通りに流れた。

「新しい文化や技術」のラインナップは、水稲耕作、大陸系磨製石器、鉄器、青銅器、機織り技術、灌漑技術等々。教科書や資料集で写真やイラストを見ながら確認。

「生活・社会の変化」に関しては、農耕開始による余剰生産物の登場、灌漑や農具の発達などによる農業生産力の向上、人口の増加と集落の大規模化、余剰生産物や土地・水をめぐり争いの激化、地域を統合する小国の成立等々を、教科書で確認。さらにこの動きを、前段で確認した事項（新文化・新技術）と結びつけて考え説明してみる。

発表の中で出てきた興味深い指摘・感想は以下の通りであった。豊かな発想力、鋭い指摘に、正直、驚かされた。

- ・指導者の出現について。灌漑技術をはじめとする様々な技術や知識、経験を持った人たちが、指導者になっていったのではないか。
- ・安定的な食料確保による集落の大規模化は、技術や知識の膨大な蓄積をもたらしたのだと思う。指導者の登場にはこうした背景があったのでは。
- ・大陸からの影響が強くみられる中で、縄文以来の文化や技術がしっかり受け継がれている面にも注目すべき。これも弥生時代の大きな特徴なのだろう。



◇ 現状と今後の課題

新指導要領の根幹をなす「探究的な学び」とは、対話的で協働的、主体的な深い学びをさす。本校地歴公民科は、昨年度、1年次の「歴史総合」において、新指導要領の趣旨を尊重した授業を展開し、一定の成果を得た。その積み重ねもあって、現状、生徒の学習活動は活発であり、議論や発表もにぎやかである。今後は、現状行われている活発な言語活動が、レポート、テーマ学習、到達度確認テスト等の結果と、どのように結びついていくのか。注視していきたい。